



(復刊26号)

第十一回日本女医会総会におもう

福田幹子

ことしの総会は風かおる五月、中京の名古屋市において開催されました。みごとに整備された道路、その両側に街路樹がみどりにゆれ、旅人にまずさわやかな印象をあたえます。

ことに道路の広さは想像の外で、東京の交通量になやまされている者の眼にはいかにも羨ましく映りました。高層建築も櫛の目のように建ち並び、総会々場の設備も充分に行き届いておりました。

総会は愛知、三重、岐阜三県の協同でお世話願いましたが実に盛大に行なわれ、懇親会場の国際ホテルの立派さ、宿泊所の清潔さ、この上ないよい会であったと思います。総会をはじめは東京でのみ行なわれましたが先年は大阪、昨年は仙台とまわりもちになり、その地方の名所旧跡を観光することにして、よい成果をあげております。

いに発展すべきであると思えます。日本は女医の数も各国より多数であり、多方面に活躍しています。ことしアメリカで行なわれる国際女医会へは日本から三十一名の多数の方のご出席になります。女医の必要性というテーマをもってゆくことになっていきます。例えば青少年の教育活動、身体障害児に対する福祉の問題、国民の栄養、思春期の女子の身心に関する問題、貞操の問題等々、女であることにより一層の効果を受け得ることがいくらかもあるわけです。

たことは、会員全体がお互いの同窓会意識を超越した力で、大なる効果をおげ得たという点でした。これは今後においても範とすべきことでしょう。名古屋はことに全国中もっとも医師会との連携が緊密にとられていること、地域の融合がうまくできていること、これが中京における女医会の発展を盛大にしたものと思われました。終りに、会員の皆様にお知らせ申し上げます。今回副会長吉岡房子先生は勲四等瑞宝章を御受けになりました。われら会員の誇りとするものと存じます。

医政に関心を

理事 木原シヅ子

去年から今年へと、日本女医会は年毎に盛大な而も力強い総会を持つことが出来る様になり、誠に喜ばしい限りでございます。その都度地元の方には身心共に並々ならぬ御負担と存じ感謝申し上げておりますが、年一回の此の機会を通して全国各地の女医が急速に親睦を深める結果となつてまいりました事は、正しく適切な計画で有ったとしみじみ思っております。昨年は仙台で宮城県支部長関清子先生を始め、御元氣なそして御立派な女医としての大先輩や後輩を眼の当りに見、今年はい

各古屋で亦々尊敬すべき大先輩、社会性豊かな同輩後輩がたを識り、自分まで誇りを覚えるのでございます。或る日、本部理事会で私が日医大田区支部の理事である故を以て何か書く様にとの御指命を受けました。然しやと二年生になった許りの浅い経験で私如きが何を書く事が出来ましょう。上には参議員議員の山本さき先生があり、医師会関係では大阪の先生をはじめ全国各地に尚数多くの先生方が医政に関心と熱意を以て活躍していらっしゃいますことを知って居りますので、こ

れ等の方々へ御依頼申し上げます。考えていますうちに、メ切を今日一日と限定されて仕舞い、止むを得ずペンを取った次第でございます。従って何の参考にもならないとは思いますが、少しだけ責を償わせていただきます。今や私共は女という古い小さな殻を棄てて堂々と大きく成長してまいりました。女医は一旦診療に当っては、その独特な情味と鋭敏な感覚とを以て、医師として最も大切な誤診を最少限度に止め得る特質を持っている反面、公的会合の場では正々堂々と声を大にして意見を披露し得る機会に恵まれました。医政問題は今も尚困難を極めていたのですが、私は男医と同席して理事に臨みながら、会長会議の報告を聞く度に、かつては実に慢然と受け流していた事なども、斯くも度重なる検討がなされ且つ一般との交渉が繰り返され、そして結論へ到達している事を感激を以て聞くのであります。以前には全く無関心であった医政問題ですが医療方面の種々な動向などについても世情と噛み合わせ、ほんとうに無関心では居られなくなりました。

前進する為には我々女医の周辺に未だ難関なきにしもあらずです。然し常に心を広く持ち、得てして女性の欠点ともいふべき私的感情に走り過ぎず、又大小に拘らず公私の分別を明らかに事を処理して行くこと等が女医の立場を将来ともに益々発展させる基ではないでしょうか。

医界を、女医の高殿に上り、その異

望台でじっくり眺めてみようではありませんか。我々医人への生活に対する或は亦使命に対する課題に関心を以て勉強しようではありませんか。ひとりの振り見て我が振り直せ、とは亦斯かる場合にも当てはめて見たい格言でございます。

全国各地の諸先生!!日医団体の仕事の中に、もっともっと多く御進出下さい。新参者の私が今ここに何をかいわんやです。次回には何卒経験豊かな医師会役員の先生方からの御意見を心より御待ち申上げて居ります。

四月二十八日、宿泊に関する御希望調査用往復葉書を四七名に発送。
五月一日、新卒業生一二名に招待状発送。

第十一回日本女医会総会を終って

愛知県支部連絡係

加 藤 千 代 子
佐 藤 千 代 子

五月十四日五月晴、新緑に映え、陽光に燦々名古屋城の近く愛知県産業貿易館に於て、全国各地より三三六名の会員が集り、盛大に総会が開かれました。開催地として昨年から準備は寧ろ日なきものがあり、盛会裡に終った今、私共の胸中はベストを尽した満足感と、宴のあとの寂しさにやや虚しい状態の感ですが、遙々御出席下さいました会員諸姉に感謝し、何かと行き届かぬ点も多々ありました事をお詫びし、又、次期開催地の方々の御参考迄に、経過を簡単に御報告致します。

昭和四十年十二月七日定例の愛知県支部理事会を総会の為の第一回の会合とし、以後毎月一回の理事会六回、臨時理事会四回、その他調査、見学(七宝村)に足をのばし、各係としての集いは数知れず四月中旬よりは殆んど連日に亘った。先づ第一に決めた事は準備の為の資金を必要とする為、開催地三原下の全会員より協力金として千円宛負担して戴く事を決め、その依頼文書を発送。(愛知県下日本女医会員二〇四名、未加入会員一八二名……、今回の総会を機に三原下で五二名、新入会……計三八六名。三重、岐阜六〇名)二月末日迄には予定額の半ばに達する協力が寄せられ理事を感激させた。同時に会場の決定を急ぎ、新春第一回の理事会を第一候補の産業貿易館会議室に於て開き、全員の賛成で決定。各役割の分担は会場、観光、宴会、宿泊、接待、案内、連絡、会計と分け、各理事が担当、会員は区単位で各係を受持った。お土産として、愛知県特産の七宝ペンダントと、小原村和紙工芸品の紙バックに決め早速交渉を始めた。

本部からは三月十一日、一応の申込締切集計として、評議員会出席三〇名、総会一二〇名、名古屋宿泊六〇名、鳥羽コース五〇名、岐阜コース一五名の報告があり、それに三原下の出席予定者数を合わせその数に基いて準備を進めていた所、五月に入り追加の連続となり、各係は嬉しい悲鳴を通りこし、転手古舞となった。各係間の連絡は在宅確実の診療時間中がねらわれ、又夜十時過ぎにはどこへ電話をしてもお話中という有様であり本部、三重、岐阜各支部との連絡も頻繁となり、連日変更する出席人員の整理確認に深夜の帰宅が続いた。

五月八日、三重県石川支部長、岐阜県松波支部長も出席され合同連絡協議会を開いた。

五月十四日当日の出席者は左記の如く膨大な参加人員となった。

①開催地では会場を半年前から確保せねばならぬが、参加人員の急な激増にも対応出来る事が第一条件である。
②会場はなるべく文教地区で環境が良く、交通、通信の便利な所、且、駐車場設備のある事も昨今は重大な条件である。
③総会は年々参加人員も増加し、内容も充実してゆくと考えられるので装飾、拡声装置、照明、映写、防音、テレビ、記録等設備の高度化された会場が必要となる。又、今回は多方面へ後援依頼する事をさけ、スズケン・センター一本に全面的協力を願ったが結果的に大変良かった。
④総会と懇親会場が同一建物内であれば一層便利である。
⑤当日受付に於て出席票(住所、氏名、出身校、年度)等を各自書いて戴いたが、これは大変役に立った。
⑥お土産、プログラム等を袋に入れてお渡ししたが、袋の表に内容を明記



景 風 付 受 館 貿 於

て嬉しい。

②共通の宿題テーマ(学問的なものでもよく、又地域社会に於ける健康教育活動とか、女医の特質を如何に活かすべきか……等)討論する様にしたら如何。

③会費を高くしてもいいから、女医会として意義ある仕事を検討すべき段階ではないか等の意見がありました。次に各係からの報告並に反省を記します。

◎ 会 場 係

この様に各係が診療にも相当の犠牲を払い、肉体的にもオーバーワークな



於国際ホテルでの懇親会

しなかつた為、薬屋のサンプルと思われて中も見られず、あとで多くの方からお叱りをいただいた。

⑦受付簿に一連の通し番号を用い、個別に分け書き込み式にしたが便利であった。

◎宴 会 係

総会市内観光の終了後、国際ホテルに於ける懇親会は服部県医師会長、葛谷市医師会長、太田日医理事を来賓として、総勢二七名出席の下に、午後六時から華々しく老松の間に於て開催された。春の海のメロデーが和やかな雰囲気をかもし出す中に、三重県支部長石川まさるを女史の開会の辞及び司会によって始められ、来賓の祝辞、森川愛知県支部長の歓迎の辞、本部代表三神女史の感謝の言葉があり、次に松岡女史が今年度新卒新入会員の方々を紹介、小俣副会長歓迎の辞を述べられ

遙々台湾より出席された林淑文姉の紹介の後、全員起立乾盃後、会食に入る。各支部の代表諸女史のテーブルスピーチ、新入会員代表西川喜美枝姉の挨拶あり、会のムードも一段と盛上って来た頃、山路曜生氏の舞踊が披露されて錦上花を添えしげし歓談の後、最後に飾って支部役員による「おぼけのQ太郎」の新舞踊で賑かに幕を閉じた。出来得れば各会員の隠芸や余興にもっと時間があればと心残りに思われたが、再会を約し、西に東に散会した。

みやびかに 銀の衣ひるがへし

おげさ踊れば 楽しきものを

お国なまり はずむ話のもろもろに

シャンデリアいよ 輝きませり

◎ 会 計 係

①会計事務は一切開催地に一任の事。本部と開催地との会計の二本立は今回の場合、事務的に不便が多く当日受付に於て非常に混雑を来たした。

②出欠席の返事には必ず締切日を設け、当日突然の出席はお断りする事もあり得る事を附記すべきである。

且又当日突然出席を取消した場合に於ては返却しない事を規約すべきである。

◎ 宿 泊 係

宿泊希望者が確定した時、その方々に同室希望等のアンケート往復葉書を送り、その御返事に基いて部屋割を決め、一覧表を作製、当日宿泊申込の分も予定しておいた為大変スムーズに入が完了し、宿泊の方々に喜ばれた。

◎ 案 内 係

日本女医会愛知県支部の旗を新調、この旗を持って当日名古屋駅新幹線玄関に出迎え、殆どの方が迷う事なく旗の所へ来られ、直に駅前に予約待機させていたタクシーに分乗会場迄お送りした。

◎ 市 内 観 光 係

安藤七宝店での見学、買物の時間に

一時間予定したのは失敗で皆さん退屈され玄関前に集ってしまわれたので慌てて観光バスを呼びに走り、予定を変更して東山ドライブコースを廻って戴いた。名古屋城での記念撮影に少し時間をとった方が喜んで戴けたのにと残念であった。バスにお乗りにならない方々の為に総会々場で観光映画を映写した。

第十一回日本女医会総会

於 愛知県産業貿易館四階(第一会議室)

昭和四十一年五月十四日

午後一時三十分～午後三時三十分

文責 佐 分 妙

総会次第

- 一、開会の挨拶
- 一、会長挨拶
- 一、庶務報告
- 一、議題
 - 1 会計報告
 - 2 会則一部改正の件
 - 3 副会長補充の件
 - 4 新入会員獲得の件
 - 5 会費納入の件
 - 6 次期総会開催地の件
- 一、国際女医会について
- 一、司会者からの連絡(追加)
- 一、山本すぎ挨拶(追加)
- 一、太田元次講演
- 一、新卒、新入会員歓迎の件(除)
- 一、閉会の辞



これから市内観光に...

委任状記名返信 四八〇通
委任状無記名返信 八九七通
計 一、六五三名 総会成立

四〇年度物故者十一名氏名、県別、卒業年度報告
照 禱

一、開会の挨拶 川那部喜美子
愛知、三重、岐阜三支部の骨折を感謝される。

一、会長挨拶 龍 知 恵 子

出席予定者 二六六名

懇親会 二一七名

岐阜観光 二四名

鳥羽 一〇〇名

出席多数の盛会を喜ばれる。よろこばしい報告 吉岡ふさ先生叙勲の件、山本すぎ先生、参院選の際に於ける全

会員尽力を感謝。その結果をみて、日本女医会の力を再認識日本女医会常任理事大村ひさる先生病状復状報告

本年度国際女医会総会(三一名他に随行者二名出席予定(ニューヨーク・ロ

チェスターにて開催)

十五分間の演題を提出してある。

近い将来この総会を日本へも招き度

い。

吉岡ふさ先生からの祝電披露

一、庶務報告 藤村ナミ

昭和四〇年度中に常任理事会七回、理事

事会六回を開催した。

それ等の会議に於ては次の議事が検討

された。

理事欠員に関する件

評議員会、総会開催に関する件

総会通知 三、七九九通

総会出席者 二七六名

司会 松 岡 宏 子

昭和 40 年度 決算 報告

自 昭和40年 4月 1日
至 昭和41年 3月 31日

収 入 之 部	金 額	予 算 額	増 減	支 出 之 部	金 額	予 算 額	増 減
会 費	2,335,700	2,440,000	- 104,300	通 信 費	310,214	320,000	9,786
内 本 年 度 分 未 納 分 前 納 分 前 納 分 利 息	1,531,500			消 耗 品 //	3,048	5,000	1,952
	319,500			備 品 //	38,540	30,000	- 8,540
	327,600			印 刷 //	242,260	250,000	7,740
	157,100			集 会 //	70,955	50,000	20,955
寄 付 金	100,000	10,000	90,000	俸 給 諸 給	720,750	800,000	79,250
雑 収 入	398,576	200,000	198,576	雑 費	59,530	70,000	10,470
内 名 簿 送 料 予 金 利 息 日 本 女 医 史 前 進 座 他	79,300			燃 灯 //	22,000	22,000	0
	33,627			国 際 会 //	406,460	300,000	- 106,460
	32,639			国 際 涉 外 //	170,637	150,000	- 20,637
	253,010			旅 費 //	80,820	100,000	19,180
				名 簿 引 当 金	150,000	150,000	0
計	2,834,276	2,650,000		事 務 所 //	240,000	240,000	0
				臨 時 予 備 費	45,860	113,000	67,140
				慶 弔 費	33,870	50,000	16,130
				差 引 残 高	239,332		
				計	2,834,276	2,650,000	

昭和 41 年度 予算 表

昭和 40 年度 資産 負債 表

(昭和41年 3月31日現在)

資 産 之 部	金 額	負 債 之 部	金 額
現 金	110,084	前年度繰越金	3,213,618
富 士 銀 行 預 金	412,222	事 務 所 引 当 金	960,000
安 田 信 託 銀 行 //	5,592	名 簿 引 当 金	150,000
有 価 証 券	3,738,600	当 年 差 引 金	239,332
内 会 費 前 納	37年 443,000		
	38年 618,000		
	39年 510,000		
	40年 32,7600		
佐 藤 や い 寄 付 金	1,120,000		
事 務 所 引 当 金	720,000		
振 替 貯 金	190,352		
未 収 利 息	106,100		
計	4,562,950	計	4,562,950

収 入 之 部	金 額	支 出 之 部	金 額
会 費 70%	2,600,000	通 信 費	480,000
寄 付 金	20,000	消 耗 品 //	5,000
雑 収 入	200,000	備 品 //	30,000
		印 刷 //	300,000
		集 会 //	50,000
		俸 給 諸 給	800,000
		雑 費	70,000
		燃 灯 //	22,000
		国 際 会 //	200,000
		国 際 涉 外 //	200,000
		旅 費	50,000
		名 簿 引 当 金	150,000
		事 務 所 //	240,000
		臨 時 予 備 費	173,000
		慶 弔 費	50,000
計	2,820,000	計	2,820,000

日 本 女 医 史 会 計 報 告

収 入 之 部	金 額	支 出 之 部	金 額	差 引 残 高	資 産 内 訳
申 込 金	37,920	送 料 他	1,370	40,250	富 士 銀 行 149,959
利 息	3,700	計	1,370	前年度繰越高	振 替 貯 金 10,900
計	41,620			翌年度 //	現 金 1,780
				現物(書籍)残 69冊	計 162,639

国際女医会に関する件
昭和三十九年度予算決算に関する件
会則一部改正の件
1 名誉会員推薦の件
2 会員慶弔費の件
3 会長、議長に関する件
副会長補充の件
会費納入の件
次期総会開催地の件
新入会員勧誘の件
昭和四〇年行事としては
五月 三日 オーストリア女医来日 歓迎会
五月 七日 前進座観劇会
五月十二日 英国女医来訪歓迎会
五月十五日 宮城県支部にて、第十回日本女医会総会開催
七月 四日 山本すぎ先生、参議院 選当選全国支部謝礼電 報發送
七月十四日 フィリップピン女医来訪 歓迎会
八月 一日 カナダ女医来訪歓迎会
十月十三日 英国女医来訪歓迎会
十一月十二日 国際女医会々々長他二
〇 名来訪歓迎会
会誌発行 五月、八月、十一月、二 月 年四回
四一年二月 各大学厚生補導部長宛 並に新卒業生及び、三 大同窓会以外の未入会 員に勧誘状發送
物故者 十一名
会員数 四〇年三月三、七九五名
四一年三月三、八七七名

新宿区内会員多数の為、東京女子医大内に一つの支部を設立

石井妙子氏支部長、評議員一名増となる

四月二十九日 吉岡ふさ先生、勲四

等叙勲瑞宝章

一、議題

(恒例により会長議長となる)

1会計報告 山口三重

○別紙印刷物参考 四〇年度決算報告

告読上げ 質疑なし

○別紙四一年度予算報告

予算を立てた根拠は、四〇年度会費納入は四二・五％にすぎなかった。

住所明確の分 三、七五七人の70％として計算した。

Stoxx's 二六〇万に当る。

国際会費は 一、〇〇〇人分一人

二〇〇円を納めている。

発言 杉並・福田

臨時予備費とあるが、臨時という言葉は不要

○四一年度予算承認

○四〇年度資産負債表

日本女医史会計報告共によみ上げ 質疑なし

2会則一部改正の件 会長

○別紙会則 第六条 名誉会員をおくこと承認

○第九条よみ上げ 内規挿入の件承認

○第七条総会の議長は会長とするの件会長説明、法人でなく、利益を伴

なわめ為総会の議長は会長とする

発言 杉並・福田
総会議長は一般会員より選出する。これは常識です。

発言 大阪・橋本
福田氏に賛成

発言 杉並・児玉
何が都合がよいのか。

会長

総会は、議題がすでに出てくるものを決議するのであるが、そうでない外のものを出されて困る事がある。

発言 奈良・山崎とし子
日本女医会は、主たる目的が親睦会であるという甘い考えは、現在は既に古いと思う。従って、利益を伴わない親睦団体故、会長が総会の議長をかねる事は、常識を外れた考えで、堂々たる日本女医会として発展するためにも、常識ある運営が行なわれたい。従って、議長は、出席会員より選ぶべきである。

日本女医会は、もっともっと腰をすえて活躍すべき時に来ている。会員数三、八七七名もあるのだから、一同結束して、大きな目的に進まねばならない。親睦の会という言葉は、むしろ御使用にならないでいただきたい。親睦親睦といつて外国に行く事が、日本女医会の目的ではない。もっとしなければならぬ事があるはずであるので、規約は常識的にしっかりしたものにしていただきたい。

継続審議を希望

会長、継続審議に賛成の方挙手を、挙手多数によって継続審議となる。

3副会長補充の件

○定方先生死亡に伴ない、(昭和四一年二月他界)旧日本医学校

卒土倉恒先生を副会長に推す。承認決定

○土倉恒先生挨拶

4新入会員獲得の件 大内広子

現在女医は日本中に約一万人いる内医業に当たっているもの

八、九〇〇人

日本女医会員 三、八〇〇人

医系四六校から名簿を取寄せ未入会員を勧誘した。

これより、新卒新入会員五八名を得、旧卒業者からは、一、二〇〇名の勧誘状により、四三名の入会を得た。

猶、愛知、三重、岐阜三県下では五二名増員骨折の結果である。会長、新入会員獲得の良い方法はな

いか。

意見なし

5会費納入の件 佐藤イクヨ

会費は、卒業後三年間は年五〇〇円その他は一、〇〇〇円であり、四〇年度は四二・五％納入された。本年は七〇％目標

発言 愛知・加茂裕子
会費は、増額して戴いて結構ですが、内容を充実して新会員にも魅力のある会にして戴く事を提案します。

6次期総会開催地の件

会長 東京と決定しております。

会長 先に決定した名誉会員には、竹内茂代、三輪田繁子、大貫セツ三

先生を推し度い。賛成
以上全般につき特別の発言を求め。発言なし

一、国際女医会について 小野春生
その目的は、各国女医親睦の会の域を脱し世の中をよくし度い。

一九六〇年 総会には十九名が出席
一九六二年 マニラ総会では、子供、老人の件が主題であった。

一九六四年 総会は、婦人、子供の慢性病について論じられた。

一九六六年 総会は、アメリカ、カナダ両国の主催でニューヨーク・ロチェスターにて開催される。

主題女医の最適な使命要するに我らの目的は何かを論ずるわけ。

オランダ女医
日本に〇脚が多いこと
清潔な国だともいわれた。

各国女医は、日本の女医と手をつないでやってゆき度いと述べられる。

国際会議は、本年七月五日からニューヨークで行なわれる。三一名出席予定少しでも多く海外へゆき、見聞を拡め度いと結ばれる。

質問 山本すぎ
総会に提出した演題名は何か

答 三神美和
外国語に自信はないが、出席三一名の団長として、出席予定、会議の実務は、小野、山崎、佐野の三氏に依頼

演題「女医の必要性」演者山崎倫子氏十五分間演説予定

一、司会からの連絡



総会で太田元次氏の講演をきく一同

四二年には、日本女医会役員改選期であるので各支部長(評議員氏名)を、四二年三月迄に連絡され度し。慶申の時は、すみやかに本部へ連絡され度し。

一、山本すぎ 挨拶

特に時間を頂き一言挨拶し度い。参院選時の各会員の努力に感謝された。

一、講演 日医常任理事 太田元次

武見会長に代り、本総会に挨拶。盛會を喜ばれる。参議院議員山本すぎ女医に対して日医は全面的に信頼をよせている。

現段階の医療問題では、社会保険財政は赤字であり、薬は使い過ぎとPRされて来ているが、その赤字財政の原因は、人口構成がこの二十年で変って来ていること、老人がふえ、老人病が多くなり、乳幼児の死亡率は減じて来ている。

これ等の外、医学は進歩を続けている。変った現社会と医学の進歩とを結ぶのは法律であるが、医学の法律は伝染病程度、この法律並に制度がおくれているのでうまくゆかぬ。現、健康保険法は、人間が四〇から五〇代で死亡する頃の法律であり規則である。人間が長生するので混乱して来た。現在問題になっている保険料率については、最高月額五四、〇〇〇円であったが、今は一〇四、〇〇〇円宛になり、この間を三六等分して保険料を出している。その率

は、70は、佐藤内閣により1000迄下げられた。65になった事は医療経済にひびいてる。

支払者側は、医療費圧縮を訴えて来ている。

医師側は、
① 医師の技術料を重視せよ。
② 物価高を考慮して上げる

支払者側—薬の使用量を下げよ。



展示室にて即売風景

薬価が高すぎる。

薬師側—入院料一三・五%上げよ。技術料を国際水準迄上げよ。

四月に逆上り治療費引上げよといっている。

中医協の人員構成は、医師に有利な割当になっている。

税金問題
経済的には、ゼツタイに手離すな28%である。

現医療は、何はともあれ出来高高いのであるのが魅力である。支払側は請負制度にせよといっている。

諸問題

千葉大事件ヤシカ麻薬問題等問題にする事なし、医師として同情出来ぬものは、お助けしない。

武見会長は、マスクミの虚像という言葉をよく使うが、最近、マスクミについての批判が出て来ている。

一、新卒、新入会員歓迎の件
懇親会々場にて行なう

一、閉会の辞 森 千鶴
十五時二十分

日本女医会評議員会

文責 佐分 妙

尚 総会に先だち左の通り評議員会を行なう

於 産業貿易館四階第四会議室

日 時 昭和四十一年五月十四日

午前十一時五十分

通知發送数 百二十三通

出席者四十四名 白紙委任状二十八通

記名委任状二十八通

会則第七条により成立

評議員会次第

司会 松岡宏子

一、開会の挨拶 川那部 喜美子

一、会長挨拶 龍 知 恵 子

一、庶務報告 藤 村 ナ ミ

一、議題

- 1 会計報告 山口 三重
- 2 会則一部改正の件
- 3 副会長補充の件
- 4 新会員獲得の件 大内 広 子
- 5 会費納入の件 佐藤 イクヨ
- 6 次期総会開催地の件

一、閉会の挨拶 森 千鶴
終了 十二時四分

総会出席随想

高知県支部
小出つる子

日本女医会とは何ぞや、各地で日々奮励している女医が集まって、時に息休めの懇親を、そして小さい一つ一つの力を集めて世に役立つ大きい仕事、特に女ならではといったものを世界の女医会と手をつないで大きい力として行なう。

参議員に有能な人を持ち女医をはじめめとして日本中の医師の福利をはかる、しかし常々田舎で患者を相手に寸暇のない私など、大きい意義より、気をつかわずにすみ、同じ努力をしている人々の話をきいたり、経験を教えられたり気軽に出来るという女医会総会へ出かけるのがたのしいというのが本心。

例えば、地元の人々と小旅行しても、医師でない人達と歩く時は、何だか常に期待されているというのが心に

かかっているのびのびと出来ないのに、女医会に出ると実にのんびりして命がのびるような気がし、総会の議場で大問題を検討している時さえも一寸も肩が凝りません、全くイイチャナイ!! っ

日本女医会の一小支部である高知県の女医会もこれ又実にいい会で、出身学校別が全然なくて、窪支部長を中心として、お互いによく交流し、誰の事でも身内の如く世話をし合い、助け合い、喜び合って、県下七〇人以上の女医がお互いによく知り合い、気軽に話し合って、学術部の行う医学研究会へもよく出席、近代医学から、健保請求要項まで、セイ書からセイ書(聖

性)まで語り合います。他県の女医会の方と御逢いしても、高知県にいる他校出身の方のことなどもお互いによく知っているのです、すぐ話はずみです。ただ、高知県女医会に入ってさえいけば、日本女医会に接しつながっているからまあいいやというイメージな気持があり、直接日本女医会に能動的な会員になろうという気が少ないのはお恥かしいようなものですが、この点も追々PRすることにいたしましょう。

此の度、名古屋における第11回日本女医会総会及び、それに続く懇親会と観光旅行は地元三県の会員の大力の結果、遠くから出かけた我々にとって本当にたのしいものでした。当地の会員を行こうや、行こうやとさそって、高知県からの出席は五名、皆たのしか

った、有益だったといっています。
 今後はもっと地元をさそうと共に、
 こんなにたのしい集まりであることを
 他県に散っているクラスメートにもよ
 びかけて、もっと多く出席させるよう
 にし、女医会総会の明るい雰囲気にな
 れさせることがさしあたり私がやって
 みようと思うことの一つです。

(高知県・須崎市 須崎)

鳥羽観光にお伴して

三重県支部

石川まさを

第十一回日本女医大会を中京に開催
 され極めて楽しい大会でありました事
 を皆様と共に感謝いたし、心から喜
 んでおります。

明けて翌日三重県鳥羽観光に百数名
 の御参加をいただき地元の三重県支部
 会員は誠に感謝してお迎えいたしまし
 ました。

道中も極めて平穩に、四日市の石油
 コンピナートを御覧いただき、伊セ路
 へと走りつづけましたが松阪にて肉弁
 当をつみこみ車中の友と語りつつ楽し
 く伊勢神宮に到着いたしました。雨
 もすっかり晴れて、神宮参拝、心から
 祈願を遊ばされた事と存じます。

それよりドライブコース伊勢志摩ス
 カイラインを登り、車中から鳥羽の絶
 景を觀賞いたしながら鳥羽に十二時過

ぎ到着いたしました。
 直ちにミキモト真珠島に上陸、海女
 の真珠採取の実演を見て山と積まれた
 真珠の製品の数々にみとれました。



スカイラインより眺めた鳥羽港

誠に楽しい一ト時で御座いました。
 それより鳥羽にて有名な「きは
 る」料亭にて、一日の旅のつかれをい
 やし海のさちを味い夕食を共にして語
 りあい、笑いつつ楽しい旅をいたしま
 した。

皆様が御無事に帰宅いただけます事
 を祈りつつ不行届の点をお詫び申上げ
 ます。

岐阜コースの記

岐阜県支部長

松波 寿美

五月十五日総会第二日は、生憎の雨

参加二十七名、四十八名乗りのバスで
 午前八時十五分国際ホテルを出発、名
 古屋を後に、雨にかすむ小牧空港を右
 に見て、昭和四十年三月十八日開村の
 名山尾張富士の山麓入鹿池の畔に出来
 た明治村へ。約一時間後到着十時開場
 を待つ。

開村以来好評をはいくし、入場者既に
 一年一寸で一〇〇万人を突破、時門前
 には、開場を待つ人続々、二十分前開
 場。

先づ正面右手丘上に美しい洋館の尖
 塔が空高く聳ゆる聖ヨハネ。階下には、
 明治村関係の文学者森鷗外、坪内
 遙道、夏目漱石の著作を中心に明治時
 代の教育文献資料が種々陳列されてあ
 った。

二階は荘厳な祭壇のある教会堂の形
 そのまま保存されて居る。
 次に、西郷従道邸、森鷗外、漱石
 邸、学習院長官舎第四高等学校階段教
 室、東山梨郡役所、名古屋の油屋東松
 邸（ここで抹茶を一ぶくいただく）安
 田銀行若松支店、札幌電話局、チンチ
 ホン電車、蒸気機関車、品川灯台、ほ
 中央に中世ヨーロッパの古城の塔を思
 わせるような小型の白い灯台、名古屋
 衛戍病院、歩兵六聯隊兵舎、佃島渡船

等、村のあちこちに移築された十
 三の明治の面影を伝える建造物、明治
 のいぶきを感じ乍ら歩きました。
 バスに帰り、車内は先輩愛知県杉江
 先生の如才のないお取持ちで、前方よ

り自己紹介、明治四十三年に医師にな



明治村正面にて

水の首で打ち消されて、船尾にはとど
 かない。

左右にあらわれてくるいろいろの岩
 はしっかりと水にぬれて美しい観音の
 瀨、富士ヶ瀬等流れの急な場所では、
 片よらないで下さいとガイドの注意を
 受け、水のしぶきを浴び、はらはらひ
 やひやし乍らスリルを味い、ローレラ
 イの歌をくり返し歌いつつ約一時間犬
 山で下船、バスに乗り、自己紹介の続
 きを聞き乍ら、岐阜の宿 ホテル高岡
 へ、三時二十分着一階大滝風呂で汗を

られた下村よしゑ先生から、昭和二十
 五年岐大出の古田恵先生、老も若きも
 一つに溶けあい、結婚のお世話も名古
 屋ではしますからとの中で、お医者様
 でパイロット一号の水落先生も申込ま
 れたようだった。

長池先生は、欧州旅行の話、延島
 先生はタイ国の学生のお世話をして居
 られあちらへお出でのお方はお世話し
 ますとのお話等、大変なごやかに時の
 たつのも忘れ、中の島乗船場へ到着登
 食をする。

午後一時、雨は益々強くなり、雨の
 日本ライン下りとなった。グリーン
 ビニールの TENT を覆ったお舟に乗り
 こむ。兩岸にライオン岩、御幸岩、夫婦
 岩、ラクタ岩、メガネ岩、屏風岩等奇
 岩怪石を眺め乍ら下る。ガイドの説明
 は、TENT を打つ雨の量、水量増した



岐阜コース 鵜飼見物へ

落し、浴衣、はんでんにくつろぐ。
 六時遊船若菜丸に乗船、雨はすっか
 り止み、五月の長良川はどてら、はん
 てんを重ね着して未だ肌寒い。
 夜空に浮かぶ金華山頂の岐阜城その
 すそを流れる清流長良川を遊覧区域へ
 さかのぼる。岐阜提灯に灯がはいり船

中で宴をほる。

鵜飼に花を添える踊り船は、そらいのユカタの踊り子が踊り歌う。岐阜民踊を披露して、縫うように踊り上り下る。パチパチと花火も楽しむ、午後八時すぎかがり火をかざした鵜舟が下つて来た。船頭が船ばたをたくトントンという音、鵜を励ます、鵜匠のホーホーホホのかけ声、思わず原始のリズムを感じさせてくれる。

鮎をくわえて得意げに川面に顔を出す鵜、やがて六そこの鵜舟が一行に並んでのフィナーレ、ホタルの光の曲流れ来り終る。

おもしろうて やがて

かなしき 鵜舟かな 芭蕉

五名は帰郷、残る十七名は宿舎ホテル高間に一泊翌日解散
晴天の日の再度の鵜飼見物をねがい筆をおく。

「女医さんパイロット」

の輩出を願って

鹿児島県支部長 水落ヤスエ

数少私共女性の医師が、街頭でそれ合っても知らずにいたという事では情ないきわみだし、また達って話をしてみれば、さらりと受け流される様な女性ならではの悩みだっている私共です。出来ることなら、相互の親睦の機

関があったらと望んでいずら、そのまま打過ぎていたのですが、女医会本部から、支部結成の要請を受けた時には、チャンス到来とばかりに、鹿児島支部の結成をいそぎました。これは確か昭和三十三年の秋のことでした。

ところが、其の折角の趣旨もど様な理由でか損われ、有名無実の嘆をかこっていた当支部会が、年を経るに従って、親睦の気運に芽生え、支部総会を兼ねた新年会は、年を追って盛会になって参りました。

今迄の御無沙汰の引け目もあり、案じていた評議員会も終始和やかな雰囲気にも包まれ、引続いて行なわれた総会も盛會裡に終りました。その間、御当番の方々には、隅から隅まで細心の御注意を払われ、快い会を営まれました上に、旅なれぬ私共の不安な気持ちを、あたたかみ再会かと錯覚をおぼえる様に、柔かくほぐしていただきました。他に御礼を申し上げる術もありませんので、この誌上を借用して、厚く御礼申し上げます。又当番地区の先輩の方々が、年令を忘れてすべてに活動的に行動されたことには、只ただ敬服する外はありませんでした。

その後の懇親会場は、さすがに国際会議が行われる場所だけあって、洋風建築に日本調が加味され、その調度品など目をみはる思いでした。その会場で指名を受けましたけど、何分にも生れて始めて御挨拶をするわけでしたので、先輩方の立派な御話のあとを受けけては、何と申し上げ様かとためらいま

した。でも常々の心臓は強い方ですので、諦めて立ち、異色の計画を御披露申し上げた次第でございます。

今回編集の方から御薦めを頂きましたので、「恥の上塗」かとも思いましたけれど、折角与えられた機会ですので、女医会の皆様に、当夜の御願いを更に御披露申し上げ、御協力が仰げたらと願ひ、拙い筆を執らせて頂きます。

私は丁度今から二年前の五月十五日付で、航空機の自家用操縦士技能証明書を書き、航空局から交付されましたもので、当時新聞や週刊誌に取材され、「女医さんパイロット」の名前を頂戴しましたから、或いは思い出して下さる方もいられると思います。

この度の企画と申しますと、私の生活の地、鹿児島の特長事情から出発致したもので、離島の往診、或いは患者の移送等を、私共の飛行機を足にして、医療面で社会に奉仕致しましょうとの考えてございます。

当地の離島は、薩南諸島やトカラ諸島が主になっていきます。之等の島々は、火山噴出物から、或いはサンゴ礁から出来ております。黒潮の中に浮ぶ島には魚は豊富で、磯釣の醍醐味は他では容易に味わえないところです。又火山地帯ですから、各種温泉の湧出も各所にみられます。にもかかわらず、離島なる故に、魚獲物の運搬も不利な、亜熱帯性の産物も持出しに不便なかこち、今後の島の発展性は皆無と

は、父祖の地を去り得ない人達が、今猶生活しています。同じ日本人であり乍ら、後進国ながらに、現代の医療を受けられずに此の世を去る人も少なくないので。余りにも悲惨と申しましようか。

その道の方が、日夜この対策に御苦心を払っていられるのですが、案外なことには、私共であれば大きな抵抗を感じずに、その救済の片棒がかつげられるのです。病み衰えた病人を、本土の設備の揃った病院に運ぶにも、営業用の旅客機のお客様としては、ことごとくに歓迎されえない実情があります。周囲も看護人も、善意はあふれる程持合せてい乍ら、不運をかこつ人達の事を、我々医師なればこそ知り、且つその、

気持ちを、他人ごとでなく理解出来るのです。この様な人達を、私共のいわゆる道楽事としてでなく、診療し、又望む場所に移送するという事などは、比較的容易な事です。この仕事を女医会の一つの事業として、今後推進出来たらと願っているのです。

それには、パイロット女医さんは一人では出来ませんので、此の機会に皆さんに呼びかけて御賛同を得たいのです。協力してもいいと思われる方は、夫々の地で、チャンスを掴まえ、訓練を受けて頂き度いのです。むづかしい事ではありません。学科試験は中学校卒業程度で充分です。自動車運転出来る年令なら間違ひなく練習に励むし、その適性は自転車に乗ればいいのです。誰でも操縦桿が握れますか

ら、意を強くして、資格を得て下さい。そして此の資格は、医師免許と違つて、世界各国共通の免許ですから安心して世界の空が飛べるのでもあります。何時でも御加勢申し上げます。又患者移送に際しては、医師として皆様方に、御協力を仰ぐ様になるかと存じますので、その節はよろしくお願ひ致します。

会費十カ年前納者氏名

(敬称略)

- 峯 信 佐野 アヤ子
- 安田 信子 林 胤子
- ト部 美津子 山本 杉
- 豊田 道子 森藤 ひとし
- 吉成 京子 柳瀬 路子
- 羽左田 知子 西村 静
- 青木 良枝 赤坂 サナミ
- 柴田 サヨ 田村 晴子
- 福永 ひろ子(二回) 中野 愛
- 三辺 幸子 渡辺 寛子

昭和四十一年六月十日 印刷
 昭和四十一年六月十五日 発行
 編集人 福田 幹
 発行人 日本女医会
 東京新宿区千代田町19
 電話 0968
 振替東京六九六八
 印刷所 東京都港区麻布田島町63
 福田印刷株式会社
 (題字、故吉岡弥生)